



蝶よ 花よ  
花よのネンネ



26日午後8時、狼煙を合図に弁天緑地に集められたご神体13基に神火が点火されました。勢いよく燃え上がる炎に、無病息災を願いながらまつりが幕を閉じました。

まつりのフィナーレを飾る「どんど焼き」

近年は、少子高齢化による人手不足などでまつりの継承を危ぶむ声もありますが、三味線、笛などで軽快なお囃子の音色を奏で、独特のおどけしぐさで浮かれる打ち手たちの伝統を楽しむ姿は、そんな悩みを吹き飛ばすかのようでした。

伝統を楽しむ打ち手たち



一番太鼓を務めた 加藤 裕之 さん

今年、一番太鼓(触れ太鼓)の大役を元町2丁目区の櫓が務めました。開始時間には、始まりを今か今かと待ちわびる大勢の見物客が櫓に集まり、厳かな雰囲気にも包まれていました。

午後1時に一番太鼓が打ち鳴らされると、各地区の櫓でもお囃子が次々とスタートし、街中は、一気に左義長色に染まっていきました。

まつり開始の合図 元町2丁目区で「一番太鼓」

時折雪がちらつく勝山左義長らしい天候の中、3年ぶりに勝山左義長まつりが開催されました。今年、全ての地区が従来通りに櫓を出し、お囃子を披露するとはいけませんでしたが、それぞれの区が今できる方法でまつりに参加し、地域の方も訪れる方も気持ちよくまつりを楽しんでいました。

3年ぶりの勝山左義長まつり 2月25日・26日